

## 平成30年第1回北海道地方競馬運営委員会の概要

日時：平成30年8月2日(木) 16:50～17:40  
場所：門別競馬場 北海道馬主会 会議室

### 1 開 会 (北海道競馬事業室 佃参事)

### 2 あいさつ (北海道競馬事業室 田中競馬事業室長)

- ・ホッカイドウ競馬については景気の低迷、バブルの崩壊などにより、平成4年度以降、赤字決算が続いたことから、組織再編や門別競馬場への開催の集約化、ナイター化などの改革に取り組んだ結果、ようやく平成25年度以降、単年度収支の黒字化を達成しているところ。20年以上も続いた赤字の時代には、存続が危ぶまれた時期もあったが、そうした間も、当時の運営委員の皆様には、ホッカイドウ競馬の進むべき方向性について貴重なご助言をいただいていたところ。
- ・本日の委員会では、「平成29年度の開催結果と30年度の開催概要」を報告後、一昨年3月に策定した「第2期北海道競馬推進プラン」については今年度が5年計画の中間年であることから、運営委員会において点検をしていただきたく、本日はその方向性や考え方について説明させていただくので、それぞれのお立場で、忌憚のないご意見、ご提言をお願い。

### 3 議 題

(司会進行：平本委員長)

(1) 平成29年度収支結果と平成30年度の開催状況について

(2) 第2期北海道競馬推進プランの実現に向けた中間点検について

(資料説明：北海道農政部競馬事業室 安藤主幹)

#### 【主な内容】

##### 【委員からの主な意見】

##### (競走馬の生産基盤)

- セールが好調であるが、大手の生産者が中心で、家族経営の生産者はまだまだ苦しい状況で、農家戸数が激減している。生産基盤を維持するためにも、生産者の支援についてよろしくお願いしたい。

##### (購買レースの分析)

- ホッカイドウ競馬の特徴は2歳馬のレースが多いことだが、ネットで買っている人が2歳馬のレースを買っているのか、そうでないのかを分析する必要があるのではないか。

##### (経営構造)

- 28年度と29年度の収支構造を比較すると3億円あまり運営費が増加しており、分析する必要がある。
- 21億円の道内発売を稼ぐのに、経費がこれ以上かかっていないか場外発売所の運営も含め点検が必要。経費を削減しながら売り上げを確保することで収益性をあげていくことを検討していくべき。

##### (ファンの呼び込み)

- 日高管内に宿泊する建設関係者や、翌日千歳空港から出国する千歳市に泊まる外国人など、門別競馬場までのアクセスをよくすることで来場者を増やすことは

できないか検討すべき。その際は、既存の高速バス事業者との連携や札幌～競馬場間の無料送迎バスの見直しも行う必要があるのではないかと。

- 「〇〇周年」記念の企業に対して道自らが営業するなどして、記念レースを実施することで、社員が来場し、さらに、それをきっかけに日高や馬文化に対する認知度やホッカイドウ競馬の素晴らしさもわかってもらえるのではないかと。
- IRではIR自体の売上げの7割がギャンブルであり、それを得るために周辺には多くのエンターテインメントの施設がある。同様に競馬場も競馬だけのために作っていると広がりがないので、今後の施設整備に当たっては、競馬場をより魅力的なものにするという視点も入れると、競馬場に来ようという方々が増えるのではないかと。
- 平取町でも3年前ぐらいから、「びらとりデー」として全レースを町関係の冠レースを実施している。ぜひ、地元の他の町もバスを出すなどして地元ファンの拡大のため取り組んでもらいたい。

(次回に向けて)

- これまで、委員会ではいろいろ意見は出ているがなかなかその後のリプライがないので、次の委員会までにこれまで出された意見に対する検討状況などの回答をお願い。

【主な発言要旨】

(1) 平成29年度収支結果と平成30年度の開催状況について

(川上委員)

- ・ 今シーズン霧などでレースが中止になったなどあれば教えてほしい。

(田中室長)

- ・ 開幕初日に4レース中止となり、当日見込んでいた売上げが2億円ぐらいなくなった。その部分と春先に頭数が少なく、レース編成が少なく推移し、目論見よりしばらく計画より低く推移している状況だったが、ここ何開催かで売上げも伸び、ほぼ目標に近づいている状況。今日現在で計画対比99.1%。前年対比では5%程度の増となっており、このままいけば儲かる状況。

(川上委員)

- ・ 最近、平取でもガスが海側から来ており心配している。

(田中室長)

- ・ 実は霧が一番発生するのはこれから。お盆ぐらいで霧も収まるが、最近は天候がおかしいのかお盆を過ぎても霧が発生することもある。

(石川委員)

- ・ 出走頭数が少なくレースが成立しないとの話があったが、その主な原因は何か。

(田中室長)

- ・ ホッカイドウ競馬の特徴は2歳が多いことと、2歳から3歳にかけて、11月に開催が終わると転籍し、春になると一定程度戻ってくることだが、戻ってくる馬が予想よりも少なく、戻ってきた馬も疲れて出走するまでに時間がかかったことで春先のレースが減った。

(片山委員)

- ・ 2歳馬が特徴とのことだが、現在はJRAネット発売の関係で発売が延びているが、出走頭数の推移の中で2歳がどんどん落ちていっている。これについて十分な分析をされて対策をしていかなければホッカイドウ競馬の魅力を落としていくことに繋がりかねないのでご対応をお願い。

(田中室長)

- ・ ネットの発売が延びているのは、ホッカイドウ競馬の認知度が高まってきたこと。JRAのネット会員の伸びが大きいですが、会員が約400万人いる中で、ホッカイドウ競馬を購入している人はごく一部なのでまだまだ開拓の余地がある。  
なお、ホッカイドウ競馬の特徴は2歳馬のレースが多いことだが、競馬新聞を見ていただいてもわかるが2歳馬は情報が少ないのでファンにとっては買いづらいので「魅力」とまでいえるかは悩ましいところ。

(片山委員)

- ・ ネットで買っている人が2歳馬のレースを買っているのか、そうでないのかを含めて検討する必要があるので情報分析をきっちりしてほしい。

(小野寺副委員長)

- ・ ホッカイドウ競馬やJRAの人気が一時期離れたことにより馬の価格が安かった。生産者の方々は未だにそこから抜け切れていない。日胆地区、日高地区に関しては馬産が最大の産業であるのでこれを消さないために、いろいろな支援を各方面に求めているところ。大手の生産者と異なり、家族経営の生産者の農家戸数が激減しており、将来どうなるのか。セレクトセールも価格がいい状況のようだが、それはごくごく一部の大手の馬主の買い付けであって、一般の生産者が潤っているかといえば、苦しい状況。道と国の支援をきちんと生産者にしていかなければ、生産頭数はどんどん減っており、早めに解決しないと競馬の継続ができないと感じており、岐路に立っていると思うので農業者の支援についてよろしくお願ひしたい。

(田中室長)

- ・ 我々はホッカイドウ競馬の運営を行っており、基本的には馬産振興までは直接リンクはしていないため、競馬の運営、施行を通じて生産地に一定程度の寄与をしていると考えている。我々が盛り上がらないと産地も盛り上がらないと言う意味で産地と密接に関わっており、心して取り組んでいきたい。  
また、道庁の中では、競馬の収益を活用した産地、生産地域振興ができないかの話は昨年来から日高の町長、首長から要請があったので、それを踏まえて関係機関で検討しているので期待しているところ。

(平本委員長)

- ・ 経費の構造で一昨年と昨年で運営費が3億円あまり増えているが、経費の内訳を精査すると節約できるところもあるかもしれないので知りたい。
- ・ また、道営競馬では場外馬券売場、A i b aを設置して馬券を売っていくことは重

要なので、なくせばいいということではないが、実は21億円の道内発売を稼ぐのにこれ以上かかっていないかとも感じる。ネットの部分は手数料もあり、ここだけに依存するのは地方競馬として決していいこととは思わないが、経費を削減しながら売り上げを確保することで収益性をあげていくことを検討いただく余地はあるか教えていただきたい。

## (2) 第2期北海道競馬推進プランの実現に向けた中間点検について

### 【主な発言要旨】

(かとう委員)

- 「1顧客(ファン)の拡大」について、私も5~6年前から言い続けているが、インバウンドの人たち、日高管内や胆振に長期滞在している建設関係者の人たちが新ひだかや浦河のホテルに多く泊まっている。朝ご飯で顔を合わせると夜何もすることがないと言っているので、ジンギスカンを食べ、ビールを飲むだけでもものすごい娯楽になるので、ナイトレースの魅力について周辺に滞在している男性たちに来てもらうことを考えるべき。

また、インバウンドに関しては私も千歳空港のホテルによく泊まるが、翌朝の1便で帰る人はただ泊まるだけになっているので、送迎の足だけ確保してあげればインバウンドの誘客は確立できる。その際、千歳や苫小牧、浦河、新ひだかのホテルの事業者とバスの運賃を折半するとか。ホッカイドウ競馬のレーシングプログラムの裏に記載されている札幌からの無料送迎バスについて、どれだけ利用者がいるのかと考えている。札幌から浦河までの道南バスは門別競馬場前で下車はできるが乗ることはできないので、競馬が終わって浦河や新ひだかのホテルに帰るために乗れるようにしてほしい。また、浦河や新ひだかの人札幌には行けるが、ここでは下車できないので、既にある無料送迎バスに経費をかけるよりも既存の都市間交通を特例でなんとか足を運びやすくできないか提案したい。

もう1つは「賞品(馬)と品揃え(番組)の充実」だが、「周年」記念の企業に対して競馬事業室の方々が営業するとか、そうした記念レースをすれば社員が見に来る。それをきっかけに日高や馬文化に対しての認知度や道営競馬の素晴らしさもわかってもらえる。企業が自分たちの会社のレクリエーションとして夜来れるようなことを考えてはどうか提案したい。

(田中室長)

- ごもっともな提案であり、早速検討させていただきたい。

(片山委員)

- 4番の「事業の持続的な発展のための施設等整備」だが、例えばIRではIR自体の売り上げの7割がギャンブルだが、ところがそれを得るために周辺にはものすごいエンターテインメントの施設がある。そのように、ここでおいしい食事を出してもいい。競馬だけのために作っていると広がりがない。もっともっと魅力的なものにすることにより競馬場に来ようという方々が増えることになる。ネット社会ということは、それはそれでよいが、そういう人々がネットにも入っていくし、裾野の広がり方などアピールできるのではないかと。4番をもう一つの切り口で検討いただければ。

(石川委員)

- 旅行会社の立場から、今まで競馬に興味のなかった新しい層をどうしていくかについて昨年も少し申し上げたが、ここが他の競馬場と違うところは馬産地にあるということ。競馬を見るだけではなく、何か他の資源と結びつけた方が新しい層が訪れるということはあると思う。かとう委員の話で気がついたが、今の送迎バスはとねっこの湯との往復はしているようだが、その次の2次交通を手厚くすることで可能なのかも

しれない。例えばとねっこの湯と競馬場とあと1つ、例えば乗馬体験施設などの循環バスとか…大型バスでなくてもジャンボタクシーでもいいと思う。例えば開催日に1時間に1本ぐらいのペースでぐるぐる回すとか。準備するだけでも来る人の利便性はずいぶんと上がるはずなのでご検討いただきたい。

(川上委員)

- ・ ファンの拡大ということで地元の方がもっと足を運ぶようにするために、平取では3年前から、「びらとりデー」として全レースを町長杯、商工会長杯など冠レースとして取り組んでいる。ぜひ他の町も地元ファンの拡大のためやってもらいたい。

(平本委員長)

- ・ 本日は各委員よりとても建設的な意見が出たところ。過去にもバックヤードツアーなど面白いなどの意見もあった。石川委員が発言されたように日高地域には面白いリソースがあって組み合わせると付加価値が上がるのではないかとの意見も出ていたところ。また、かとう委員からも発言があったが、無料送迎バスの利用状況やどれぐらい赤字を出しているのか、もうすこし別の方法はないのかなど、この審議会でいろいろ意見は出ているがなかなか事務局、事業室の方で検討された上で、それではこういう解決策がありそうですとか、こういうことはどうでしょうとか、旅行会社に投げかけてパッケージを作ることなどやってみる動ける余地はたくさんありそう。ぜひ事務局にはこれまででた意見を検討していただき、前向きに事業に結びつけてもらいたい。できないところはできないでかまわないが、なぜできないのかを説明いただき、ここで出た意見を次の委員会までに、リプライをいただけるとより積極的な場になるのではないか。今回点検をしていくための1回目の議論となるが、2回目以降で今回の意見を踏まえた上でのプランの中間点検の際の事務局サイドから資料も出てくると思うので引き続き委員会の場でご検討をよろしく願いたい。

#### 4 閉 会

(北海道農政部競馬事業室 佃参事)

- ・ 本日は貴重なご意見、ご提言ありがとうございました。これで北海道地方競馬運営員会を終了する。

(以上)